

那覇市医師会「チャリティ写真展」



那覇市医師会 理事（沖縄赤十字病院） 知花 朝美

那覇市医師会においては、市民、県民との接点を求めて、ラジオ沖縄「医療ホットライン」の番組、健康ウォーキング大会、総合芸術祭、チャリティ写真展などの活動を行っています。その一つのチャリティ写真展についてご紹介いたします。今年も、平成21年7月8日より、7月13日までの6日間、那覇市久茂地のリウボウホールで行われました。那覇市医師会・チャリティ写真展は、「医師と、患者さんと患者さんの家族との垣根を出来るだけ低くして、本音で医療や健康について語り合える環境作り」と、さらに、微力ながら、交通遺児の方々とその親御さんの支援になることを願って、続けられています。もちろん、交通事故を減らす活動も重ねてお願いしています。

チャリティ写真展は、沖縄県医師会の写真展（10回）を継承して、那覇市医師会チャリティ写真展となり、9回目となりました。通算すると、19年続く恒例の写真展になりました。「今年も、写真展を楽しみにして来ました」との市民の声もあり、市民の方々にだんだんと認知される写真展になってきたと自負しています。毎

年、初日のリウボウ開店時間前のオープニングセレモニーとして、テープカットを行います。今年も、前田小学校2年生 比嘉小也音さん、前田小学校5年生 上原光都希さん、沖縄県交通遺児育成会理事長の高嶺朝一氏（琉球新報社社長）、伊志嶺剛リウボウインダストリー社長、そして友寄英毅那覇市医師会長の5人でのテープカットを、多くのマスコミの方の前で行われました。そして、例年、初日の夕方には、出品者と那覇市医師会会員との交流をはかる1時間程度のオープニングレセプションも行います。出来るだけ多く、市民・県民との交流の場を作ろうとしています。成功しているかどうかは別として・・・チャリティ写真展への出展は、会員の先生方、ご家族及び、会員施設の職員の方々を対象に募集しています。さらに、他の地区医師会の先生方の出品也大歓迎となっていますので、よろしくお祈いします。今年も、中頭病院の平安山英義先生、健保協会の宮里尚義先生、那覇市立病院の川野幸志先生（昨年は島袋洋先生も出展）、南部地区医師会の安里良盛先生、などの先生方が出展いただきました。また、ご協力いただいている写真教室の方々も含めまして、今年の総出展数は、126作品（66名）でした。ちなみに、平成20年は168作品、平成19年は、134作品、平成18年は126作品でした。展示作品を、2,000円で販売し、募金とあわせて、沖縄県交通遺児育成会に寄付しています。今年の6日間の来場者数は、697名（昨年997名、一昨年1334名）でした。

写真の内容も、写真家の新嘉喜裕司先生のご指導（県医師会の写真展より引き続きご指導をお願いしています）の下、全体的に見て、年々



上達しているとの評価を受けています。もちろん、玄人の先生方の写真とは比べられません。私の下手な写真でも額に入るとすばらしく見えますし、デジカメが普及してきて、100枚、200枚撮っても、気に入らないのは削除しながら、その中から、気に入った写真を一つ二つ見つけるという状態にまで成長していきます。下手でも「自分の気に入った写真」が出来てくるでしょうとのことでした。(ほんとは、妥協して提出しています) また、もう一つの新嘉喜先生の工夫は、作品をキャビネサイズに展示することでした。このサイズだと、細かな欠点が見えるのです。素人の私も含め、初心者の先生方の写真が、額に入るとすばらしい写真に変身するのです。腕に自信のある玄人の先生方には、物足りない感じがするのでしょうか、「もっと、大きいサイズに」と要望があるのですが、広く、多くの方々が出品し易い「チャリティ写真」であり続けるために、この形を続けることをお願いしています。

ご覧になった先生方は、ご存知でしょうが、写真のジャンルも多彩に出品されています。風景、花、家族、ペット、お嬢さん、シーサー(友寄英毅会長)、旅行風景、ダイビングの海の世界(真栄田篤彦先生)、沖展に入選した写真(石川秀夫先生)などなど、また、去年は、仲地紀正先生出展の思い出の写真(浜松哲雄先生、田崎邦男先生の写真)や當山護先生の當山堅次先生・表情シリーズなどもありました。医師の生活を表す写真などは大歓迎です。一昨年まで、綺麗なヌードの作品もありました。さらに、ご協力くださっている写真教室、「五十路会」の方々、「ゼロ」の方々、ウエル・カルチャースクールの方々の洗練された作品など、去年は、写真教室「一期会」にもご協力いただきました。全作品はご紹介できませんが、すばらしい作品ばかりが展覧されていました。もちろん、2,000円では安いと思えるプロ級の玄人の

写真もあり、先に売れていきました。

しかし、那覇市医師会チャリティ写真展としては9回を数えましたが、医師会会員の先生方の出展者数が、なかなか伸びないという事実があります。写真を集める事務局の苦労は変わりませんし、また、医師会と、患者・家族および県民、社会とのつながりを醸し出すという目標に近づくためには、裾野を広げるためのもうひと工夫が必要と思われます。

昨年度は、沖縄県民の方々の交通遺児育成会への寄付にて、141名の沖縄交通遺児の方々に奨学・育成金(約1,126万円)が送られたとのことでした。まだまだ、足りないと思われま。皆様のご協力をお願いいたします。当会の昨年のチャリティ写真展の交通遺児育成会への寄付金(売り上げ金、募金の合計)は307,224円でした。(今年は、集計中) わずかな金額ではありますが、今後も、交通事故を無くする努力とともに、沖縄県交通遺児育成会(高嶺朝一理事長、屋我嗣寿男事務局長)へのささやかな支援を続けていきたいと思ひます。

今日から、那覇市医師会の先生方はもちろん、他の地区医師会の先生方も、来年のチャリティ写真展に向けて、カメラを手にとっていたきたいと思います。

皆様的那覇市医師会・チャリティ写真展へのご協力をお願いいたします。

